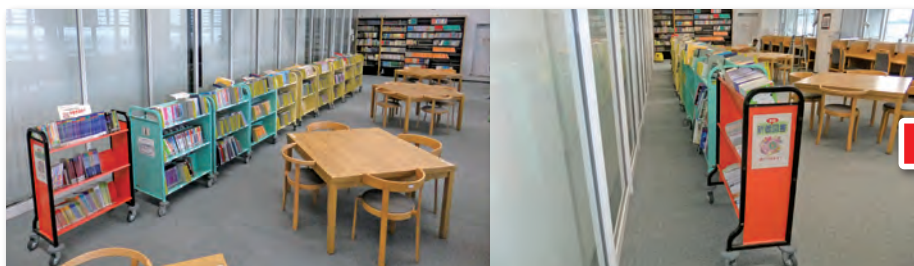
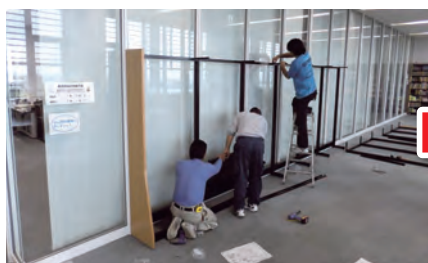
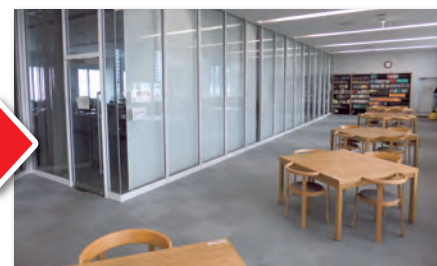


沖縄高専 図書館だより

第5号



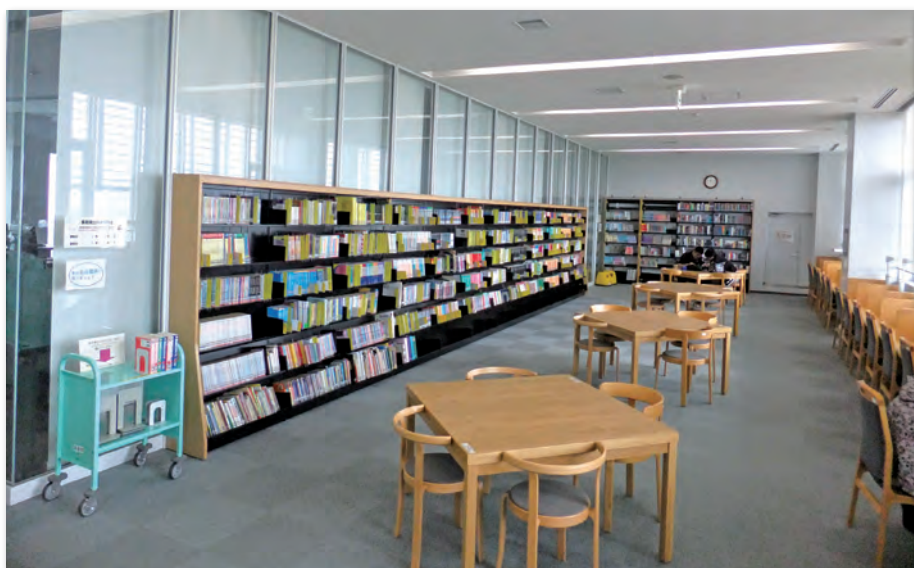
英語多読書架の設置前



工事開始



完成間近



完成！2012年2月24日、多読用書架が設置されました。



目次

- 図書館トピックス……………P2
- ブックハンティングに
行ってきました！……P3
- 総合科学科（英語科）
新川智清先生にインタビュー……P4-5
- 私の国の図書館……………P6
- 教員執筆図書紹介……………P7
- 貸出ランキング&教員コラム……………P8

学生図書委員会委員長のコメント

具志堅悠里（生物資源工学科3年）

沖縄高専の図書館には、分野別に様々な本が置いてあります。特に、小説などはあまり見たことがないマイナーなものから海外の児童文学までたくさん面白いものがあり、ついつい時間を忘れて読みふけてしまいます。また、学習用の本も充実しておりレポートや課題の作成にとっても役立つと思います。蔵書数も多いのでいろんな分野の本棚を見て回れば気に入った本の発見など、楽しみが増えるかもしれません。暇なときは入口のAVコーナーで映画を見たりするのもオススメです。

きっと面白い出会いがあると思うので、一度図書館に足を運んでみてください。



図書館トピックス

■ 英語多読書架を設置しました

沖縄高専では、現在約1万5千冊の英語多読図書を所蔵しています。今までは、ブックトラック10台に配架していましたが、2012年2月24日に英語多読用の書架を設置しました。ずらっと並ぶ多読図書は圧巻です！絵本からペーパーバックまですべて貸出できますので、お気軽にお越しください。



■ 各種講座を開催しました

4月～7月にかけて、学科担任団との協力の下、3つの講習会を開催しました。

- ・新入生向け：OPAC講習会（検索した後、館内で図書を探すまで）
- ・2年生向け：ジャパン・ナレッジを中心とした各種データベースの紹介
- ・卒研生向け：CiNiiとJDreamの検索実習&ILL利用法

データベースの利用法などわからないことがありましたら、カウンターへどうぞ！



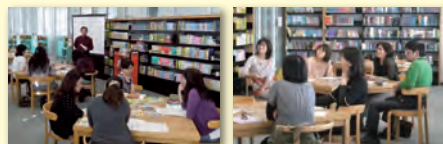
■ 九州沖縄地区国立高等専門学校図書館長協議会を開催

平成24年度（第10回）九州沖縄地区国立高等専門学校図書館長協議会が9月13日（木）、14日（金）に本校で開催されました。この協議会は2年ごとに開催されており、今回は九州各地の高専から図書館長など約20名が参加し、各図書館の現状や問題点等が話し合われました。（参加高専：久留米高専、有明高専、北九州高専、佐世保高専、熊本高専熊本キャンパス、熊本高専八代キャンパス、大分高専、都城高専、鹿児島高専、本校）



■ 北部地区小中学校教員対象「やさしい絵本から始める英語多読」講座を開催しました

11月17日（土）、12月15日（土）の2回にわたり、本校図書館において、北部地区小中学校の教員を対象に、「やさしい絵本から始める英語多読」講座を開催しました。教員ならではの質問も多数出た他、多読の成果を本校学生の宮里春奈さん（生物2年）がプレゼンするなど、図書館長でもある総合科学科英語担当の新川先生の指導のもと、大変充実した時間が過ごせました。



■ 緑風学園の中学生、多読体験授業のため来館

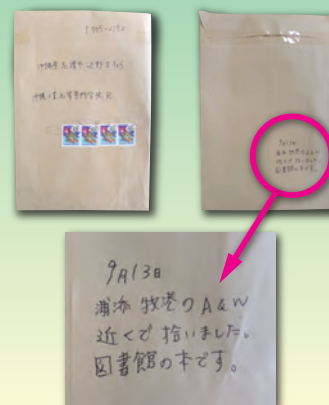
12月21日（金）名護市立緑風学園（旧名護市立久志小・中学校）の中学生39名（中1：13名、中2：26名）が多読の授業を体験するため来館しました。今まで受けた事のない「多読」という授業に最初は戸惑い気味でしたが、新川先生の指導のもと楽しく英語を読み進めながら充実した時間を過ごしました。今後も図書館を利用したいとの希望で、ほとんどの生徒が利用証を作成しました。



THANK YOU! ちょっとい話

ある学生から「図書館の本を紛失してしまいました」との申し出があり、弁償ということで話をした数日後、図書館宛に封筒が届きました。消印は浦添です。差出人の名前はありませんが、裏にメモ書きで「浦添牧港のA&W近くで拾いました。図書館の本です。」とありました。中身はそうです！数日前、紛失したと申し出のあった本です！失くした本人はもちろん、図書館スタッフ全員が感動したのは言うまでもありません。誰かわからない相手の親切に、心がじんわりと温くなった出来事でした。差出人不明なので直接お礼を申し上げることは出来ませんが、この場を借りてお礼を申し上げます。

「本を大切に扱ってくれて、ありがとうございました！」



ブックハンティングに行ってきました!

2012年11月12日(月)、スクールバスを利用して、那覇のジュンク堂書店にてブックハンティングを行いました。ブックハンティングとは、学生が直接書店へ出向き、「図書館に置いて欲しい本」や「みんなに読んで欲しい本」を学生の視点から選んでもらうという選書ツアーです。学生の意見が図書館の蔵書に直接反映される機会となっています。学生図書委員はクラスで希望があった本の他、書店に並んでいる本から興味のあるものをじっくりと選びました。今回は、小説から専門書まで幅広いジャンルの本「合計175冊」を購入しました。



ブックハンティングに参加して

又吉りさ (生物1年)

今回、私は自分の趣味の本を選び、少し罪悪感があったのですが、その本が図書館に並んでいるのを見た時はとても嬉しかったし、友達も「私も読みたかった!」と言ってくれ、どんな本でも需要はあるんだなあと思いました。このイベントは自分の大好きな一冊を色んな人に読んでもらえる良いチャンスだと思っています。また同じ図書委員の人や先生方とも以前より打ち解けられた様に感じます。私にとって、とても有益な経験となりました!

平安史門 (機械2年)

今年初めて図書委員になった自分もブックハンティングの事は4月の時から意識していました。そして、ブックハンティングの当日、初めてジュンク堂に入って、どこを見ても本ばかり。それが、初めてジュンク堂に来た自分の印象でした。買いたい本を探しながら、ジュンク堂全体を見ていきました。自分は何人かで回ったので、「この人の作品は面白い」など、本を紹介してもらい、すごく充実した時間を過ごせました。

比嘉聖 (情報4年)

去る11月12日、私はジュンク堂書店 那覇店へとブックハンティングに参加しました。私が思うブックハンティングの魅力は「自分の好きな・興味のある分野の本を図書館に置くことができる」という点です。私はエレキベースをやっていますが、図書館にはそれらに関する本が少なく、不満を持っておりました。そこで、エレキベースに関する図書を充実させようと思い、ブックハンティングを利用して本を買いました。図書館に新しい本を置きたいと思っているそこのあなた!! 図書委員になりましょう!

新垣京香 (メディア5年)

今回、学生生活最後のブックハンティングに参加しての感想は、選ぶ本の種類にも成長が見られるものだな、というものでした。今回で4回目の参加でしたが、低学年の頃のブックハンティングのリストに書かれる書名は物語など、趣味の本が多いものでした。高学年になるにつれ、専門書がリストに載ることが増えていきました。これからもこの行事が続いて、学生が読みたいと思う本の多い充実した図書館になってほしいです。

学生図書委員会が新川智清先生(図書館長)へインタビューしました!

今回は、2013年3月で沖縄高専を退職される総合科学科(英語科)の新川智清先生にインタビューを行い、学生や多読に対する熱い思いを語っていただきました。みなさん、多読教の信者になりませんか(笑)?

■沖縄高専に来る前は何をしていたらっしゃいましたか?

27年間、高校の英語教師をしていました。

■どのような経緯で沖縄高専にいらっしゃったのですか?

中高生の頃から高校の英語教師になりたいと考えており、27年間高校に勤めていました。偶然、沖縄高専が英語の教員を公募していることを知り、応募しました。高校は集まる学生が地域ごとに固まってしまうが、高専では色々な場所から集まってくる学生と出会うことが出来る、また、高校とは違ったことが出来るかもしれないと考え、高専に来ました。

■沖縄高専の学生は先生から見て、どのような評価ですか?

1期生、2期生の学生たちは、自分の将来に対する期待や取り巻く人たちからの期待、また、寮生活など普通の高校生とは異なる環境での生活ということもあり、野心に溢れ個性的な学生が多かったですね。その分やんちゃな部分も多くて学生主事のころは大変な思いもしましたが楽しかったです。しかし、最近は無個性な学生が多いように感じるので、自分の夢や目標を持ってもらいたいと思います。

■教員生活を通して印象深いことは何ですか?

学生それぞれが夢をもっており、高専を卒業して就職したり大学に進学します。彼らが自分の夢に向かって歩んでいる姿を見ることがとても嬉しいことです。時には、教師が想像している以上の実績を残す学生もいるので、それもまた素晴らしいことだと思っています。

■やってみたかったことや、やり残したことはありますか?

ここでは多読を担当し、いつでも本が読める環境にありますが、退職してしまうと読める機会が減ってしまうのが残念ですね。あと、多読が長続きするような方策を十分に実施できなかったことが心残りです。

■多読が持つ効果を教えてください。

九州地区の全高専の中でTOEICの平均点が、沖縄高専は九州の上位。他高専と明らかに違うことは、多読多聴を全学年の授業で取り入れていることでしょうか。多読多聴を除くと、やっている事はどの学校もほとんど一緒でしょう。学生個々の英語に対する意識が高いことの表れだと思います。要するに、5年間継続して多読をしていれば確実に英語力は伸びるという事です。

■多読とは新川先生にとってどういうものですか?

「楽しく本が読める」ということですね。

■高専で多読学習をするにあたって一番悩んだことは?

ないです(断言)! しいて言えば、本の置き場所でしょうか。開校当初は、図書館入口のゲート前のスペースに書架を設置したり、その後は実践棟に本を全部移動して自由に貸出できるようにしましたが、本が紛失するなど管理が難しかったため、図書館と相談して館内に置いてもらう事になりました。それでも、今のような立派な書架ができるまでは、ブックトラック10台を並べていたんですよ。2年越しの書架です。もう1つ付け加えたとしたら、「学生にいかにも本を読ませるか」でしょうね。

■多読学習をしていて一番楽しい時はどんな時ですか?

難しいなあ。ただ、しめたと思うのはニコニコしながら本に没頭する学生を見たときですね。



新川先生(中央)を囲んで

後列左より 具志堅悠里、譜久島玲、下園良太、仲間礼文
(生物3年)(情報3年)(メディア3年)(機械3年)



■多読に苦手意識を持っている人もいますが、そういう人はどうしたらいいですか？

やさしい本からたくさん読みなさい。背伸びはするな！ 読み続ければ自然に理解できるようになります。

■多読が長続きする秘訣はありますか？

さっきも言ったけどやさしい本から読むこと。多読をすれば英語の基礎力が必ずつきます。僕は「多読は宗教だ」と話しています。教祖は僕(笑)。たくさん読めば必ず力が付く！ あとは、語数やYL(読みやすさレベルの略)を上げることを楽しみにしたらいいのではないのでしょうか。



■多読や多聴でリスニングとリーディングは鍛えられますが、スピーキングとライティングはどのように鍛えればよいのでしょうか？

基本的に多読を何百万語するというふうに、たくさんの英語に触れるという事は、INPUT(リーディング・リスニング)のみならずOUTPUT(スピーキング・ライティング)につながります。ただし、ライティングに関してはある程度の文法は必要です。効率よく習得したいなら多読と文法を一緒に勉強したり、目の前で起こっていることを英語で口に出して言うのもいい方法です。例えば曇りの日なら「It's cloudy today.」という風につぶやく。僕もよくやっています。スピーキングは、英語を話す環境に身を置くのが一番です。君たちの年齢で半年も留学すればすぐ話せるようになるでしょう。



■英語の勉強の根幹となるものは何ですか？

「やる気」！ これ以外ありません。何事もやる気です。

■沖縄高専の英語力を上げるにはどのようにしたらいいのでしょうか？

英語の必要性を知ることが学生全体の英語力をアップさせることにつながる。低学年では本当に英語の必要性を感じている学生は少ないと思うから、先輩と後輩の交流の中で、先輩が英語の必要性を伝えてくれれば一番いいと思います。僕ら大人が言うより、身近な先輩からの言葉が一番刺激になるし、やる気を起こさせるでしょうからね。



■話は一転して、好きなコーヒーはなんですか？

(笑)。なんでも好きです。

■退職後したいことは何ですか？

魚釣りがしたいですね。前からやりたいと思って車にも釣り道具をのせているんだけど時間がなくてできなかったの。釣りも奥が深いんだろうなあ。

■スポーツは好きですか？

僕はどちらかというとアウトドア派。中学生の時テニス部に入っていたような(?)気がします(笑)。走るのが好きですね。名護高に赴任した時、大先輩の先生に頼まれて駅伝部の顧問をしました。最初はあまりやる気はしませんでした。少しずつ一緒に走るようになり、長距離の練習ではいつのまにか先頭を走れるようになっていましたね。それから留学して2年間、全く走らなかったのですが、帰国後初めて那覇マラソンに向けて少しずつ走り、3時間47分という自分でも最高の記録を出すことができました。最近は膝が痛くてつらいけど、走ったらビールがおいしい！



■学生に向けての一言をお願いします。

自分の目標をちゃんと持ち、それを成就するために道を切り拓いていってほしいです。ただ生きるのではなく、人から与えられたレールを走るのではなく、自分で人生を切り開いていくよう努力してほしいです。

～インタビューを終えての感想～

新川先生から教員生活の思い出や、英語の学習法などの話を聞くことができ、充実した時間を過ごせました。先生のあの方言が聞けなくなると思うと寂しいです。本当に素晴らしい時間をありがとうございました。

インタビューアー 一同

私の国の図書館 留学生の皆さんの国の図書館の様子を聞いてみました！ (ほぼ原文のまま掲載しています。)



チョン ケヴィン (メディア3年) インドネシア出身

私の学校の図書館は沖縄高専のように立派ではない。図書館と言えないくらい小さく、本が少なく、古い本ばかりだった。しかも貸出も受け付けられなかった。学生はほとんど図書館を宿題のやる所として使われた。それに加えて、インドネシアが暑いので、エアコンがついている図書館を避暑場として使われた。私たちは本とあまり触れない環境の中で勉強した。新しい本が欲しければ、本屋さんに行って、本を買うぐらいだった。沖縄高専に来て、充実した図書館に驚かせた。技術に関する本だけでなく、幅広く分野の本もある。また、新しい本はいつも追加される。さらに、様々な新聞や雑誌なども毎日、毎週、更新される。普段本をあまり読まなかった私は、この図書館があるおかげで、たくさん本を読むようになった。この恵まれている学校に来て、良かった。みなさん、このような充実した図書館があって、感謝すべきだ。この図書館を活用し、たくさん本を読み、知識や視野を広げ、世界を見ようではないか。



ヘーワマーナゲ ラヒル (メディア4年) スリランカ出身

初めまして。私はスリランカから来ました留学生のラヒルと申します。この度母国の図書館のことを紹介させて頂き、ありがとうございます。私はスリランカの"ANANDA COLLEGE"と言う高等学校の卒業生です。高校生の時学校の図書館と自分が住んでいたコロンプ市のコロンプ市議会公共図書館によく通っていました。留学して以来、沖縄高専の図書館を利用してもらい、私の国の図書館と高専の図書館の間にいくつかの違いがあることに気がつきました。その中から違う点を二つ取り上げたいと思います。一つ目の違うところは図書館の中の雰囲気です。スリランカの図書館はとても薄暗い場所です。友達同士でお喋りしたり、グループで行動したりする人たちはほとんどいません。よって図書館はとても静かな雰囲気ですが、学生が何も無い日に図書館へ行くということもなく、利用する人はあまりいません。対して高専の図書館は気楽に勉強できる、学生を惹き付ける場所だと思います。もう一つの点としては、高専の図書館の設備の良さが取り上げられます。高専の図書館では、各学生が自分の学生カードを使用して本を借りることが可能にされていますがスリランカの図書館はまだその技術的レベルには到達していません。無断持ち出しを防止するために図書館の中にカバンの持ち込みは禁止となっています。設備の差から見ても高専の図書館と比べたら不便な環境です。スリランカの図書館と高専の図書館では、国によって違うところが存在するのは当たり前だと思います。自分はスリランカの図書館の大変静かな雰囲気も大好きですが、高専の図書館みたいな便利な図書館になって欲しいです。



ミージャセル アーサー (生物4年) ラオス出身

みなさん、こんにちは、ラオス出身のアーサーです。今日は、私の国の図書館についてお話をしたいと思います。発展途上国のラオスの図書館は、先進国の日本の図書館と比べたら資料などが少ないです。大学でも基本的な設備ができていますが、資料や情報が少ないです。そのような状況でも十分に学習・勉強できる程度になっています。ラオスと日本を比較するのは難しいですが、ラオスの学校には、ほとんど図書館がありません。図書館があっても基本的な設備はできていない現状であるため、資料なども少ないので、あまり勉強できる所にはなっていません。そのため、短期大学や大学の情報なども手に入れるのが難しいです。その代わりに大学の情報などは、先輩達の話聞くことが大事です。それが先輩達から進学の資料や情報を手に入れる形で進んでいる現状です。一方、日本の高校や大学の図書館は、基本的な設備というより、上等な設備になっていると思います。特に沖縄高専の図書館は、学習などに必要な施設・設備ができた状態になっており、とても勉強できる場所だと思います。ただし、図書館内でIT教室などあることや騒音などが多少の問題があるので、これについて対策する必要があるではないかと思います。私は、ラオスの大学にいた時、図書館によく通っていました。特に新聞などを通して社会を知ることができました。そして、日本に来る前は、ラオス国立大学ラオス日本人材開発センターの図書館で、日本に留学する試験過去問などを調べました。その結果として日本に留学することができました。それが図書館のおかげとも言えます。また、日本に関して様々な情報を調べました。図書館があるということは、とてもありがたいことです。これからも図書館を大事に使うようにしたいと思います。

教員執筆図書紹介



図書を出版された先生方で自身に図書紹介をしていただきました。ここで紹介されている図書は、すべて図書館に所蔵がありますので、是非ご覧になってください。

網谷厚子(総合科学科)

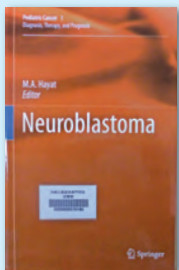
『詩的言語論—JAPANポエムの向かう道』(国文社)



現代詩・俳句・短歌など幅広いジャンルの作品における「詩的言語」について、分析を行っている。そのことにより、「日本語」による多様な表現の可能性を追究している。通時的な視点をもって、時代を超え、また、現代の直面する課題について考え、わかりやすい「読み物」としても楽しく読むことができると考える。また、表現が理解されるための「橋渡し」としての「批評」の役割についても言及している。

池松真也(生物資源工学科)

『Neuroblastoma』—Pediatric Cancer 1 (Springer)



神経芽腫は副腎や交感神経節から発生する小児固形腫瘍の一つである。一方、私達が沖縄高専で研究しているMidkine(MK)の発現量は神経芽腫の予後因子と強く関連し、悪性度の指標の一つとなると考えられた。今回、本書内で患者の血液一滴で神経芽腫の予後を推測できるバイオマーカーとしてのMKの可能性を示した。

担当部分

Part IV Prognosis 22 Neuroblastoma patients: Plasma Growth Factor Midkine as a Prognostic Growth Factor PP.223-228

著作物寄贈のお願い



図書を出版された教職員の方は、図書館にご寄贈くださいますようお願いいたします。

姉崎 隆(メディア情報工学科)

『ロボット情報学ハンドブック』(近代科学社)



ソフトウェアの重要性が高まるにつれ、ロボット工学と情報工学は融合し共に進化し、新たな研究領域を創造しつつある。情報系研究者・技術者がロボットのことを知るために。ロボット研究者・技術者がロボットのことを知るために。ロボット工学と情報工学にまたがる新領域をカバーした初めてのハンドブック。ちなみに、姉崎は移動ロボット視覚誘導、すなわちカメラを用いたロボットナビゲーションの部分執筆。

担当部分

第5章コンピュータビジョン: 5.8移動ロボットにおける視覚誘導

<雑誌>

『電気学会論文誌D(産業応用部門誌) Vol.133 No.2(2013) 特集: Okinawa型ロボット組み込みシステム』(電気学会)



電気学会論文誌 D の2月号で、前半部分を占めるのが、「Okinawa型ロボット組み込みシステム」特集です。この特集は、2年前から姉崎が企画・募集・編集を行ってきたものです。「Okinawa型ロボット組み込みシステム」とは、内閣府沖縄総合事務局と電気学会 Okinawa型ロボット組み込みシステム協同研究委員会が智慧を出し合ってきた沖縄向けロボット組み込みシステムの開発コンセプトです。詳細は特集号冒頭の解説論文をご覧ください。厳正な査読を経て10件の論文が採録されました(内1件は翌月号以降)。2年後に続編の特集号を発行することが電気学会より承認されています。ご期待ください。



順位	回数	書名
1	58	My mom, the movie star (Foundations reading library ; level 7)
2	57	The old promise (Foundations reading library ; level 6)
3	56	The secret tunnel (Foundations reading library ; level 7)
4	55	Does he love me? (Foundations reading library ; level 6)
	55	Let's party! (Foundations reading library ; level 7)
6	49	Days with Frog and Toad (An I can read book ; 2)
7	48	The golden monkey (Foundations reading library ; level 7)
8	47	Love online (Foundations reading library ; level 7)
9	46	The lost wallet (Foundations reading library ; level 6)
10	44	Who's best? (Foundations reading library ; level 5)
	44	Do it! (Foundations reading library ; level 7)
12	42	No, you can't (Foundations reading library ; level 6)
13	41	Do I tell? (Foundations reading library ; Level 4)
14	40	The shipwreck (Foundations reading library ; Level 4)
15	39	Go Jimmy go! (Foundations reading library ; Level 4)

順位	回数	書名
16	38	Mystery on the island (Foundations reading library ; Level 4)
	38	Trouble at sea (Foundations reading library ; level 6)
18	37	The bear's mouth (Foundations reading library ; level 5)
	37	白 ; 猫物語
20	36	Escape (Oxford bookworms starters)
	36	Boys vs. girls (Foundations reading library ; level 5)
	36	A helping hand (Foundations reading library ; level 6)
23	35	Think Daniela! (Foundations reading library ; level 5)
	35	黒 ; 猫物語
25	34	Frog and toad are friends (An I can read book ; 2)
	34	花物語
27	33	A Connecticut Yankee in King Arthur's court (Oxford bookworms starters)
	33	Slam dunk for Mark (Foundations reading library ; Level 3)
	33	Lost at sea (Foundations reading library ; Level 4)
30	32	Beauty and the beast (洋販ラダーシリーズ ; Level 1(1000-word))

教員コラム

私の書棚

第5回 成田 誠 (総合科学科教員)

「読むだけじゃ詰まらない」

私は読書は好きではない。少なくとも大学生になるまではまともに本を読んだことはない。所謂名作と呼ばれる本の文学的・情緒的表現に何の感動も湧かず、むしろ手塚治先生の漫画の方が遥かに感動的だ。では何も読まないか？数学・物理学(の専門書)は面白い。客観的・論理的・厳密で曖昧さは皆無、それでいて無味乾燥ではない、生身の人間が創造した人類の至宝である。これらの書籍を読むと「(もし存在するなら)神は数学者なのか？」と思わせるほど、自然を司る物理法則が数学によって見事に記述されていることに感動を禁じ得ない。数学・物理学の専門書を読むとき、紙と鉛筆は必携だ。そこにある定理・公式を自ら証明することで、本に綴られている"物語"の登場人物になることができる。そのときの達成感は何物にも代え難い。時として主役になることや、更には物語の結末を劇的に変えてしまうこともある。未だ完全ではない数学・物理学に一つの補完がなされる瞬間である。多くの専門書・論文を熟読し、論文執筆してきた。その過程で非専門書"縦書きの科学"の楽しみも覚えた。一例として、100年前に数学・物理学が一体であった頃の科学者が当時の難問に如何に挑んでいったかは、現代の我々に対して貴重な教訓を与えてくれる。

ジュール・アンリ・ポアンカレ (Jules-Henri Poincare) の4部作「科学と仮説」「科学と方法」「科学の価値」「晩年の思想」を推薦して本稿を終える(機会があれば次回に続く)。



学外者の方へ

沖縄高専図書館は、一般の方へも開放しています。また、利用証の発行を受ければ、図書の貸出が可能です。「利用証」の発行には身分証(運転免許証等)の提示、「図書館利用願」(図書館カウンターにて配布)への必要事項の記入が必要です。どうぞお気軽にご利用ください。



奥付

「沖縄高専図書館だより」(第5号)

発行日:平成25年3月

編集・発行:沖縄工業高等専門学校図書館

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古 905 番地

TEL:0980-55-4037 FAX:0980-55-4067

図書館ホームページ

<http://www.okinawa-ct.ac.jp/toshokan/>